

中部地域には風光明媚な自然、歴史的な大事件の舞台となった場所等が多く存在し、映画やドラマのロケ地として使用された場所が多くありますが、それらを地域の活性化に結びつけたり、観光の資源として活用する動きが必ずしも十分でないといわれています。調査季報「中部圏研究」では、こうした地域が情報発信を行い、その後の活性化につなげている事例取材し紹介していきます。第3回目となる今回は、長野県上田市の事例をご紹介します。

【事例3】

「屋根のないスタジオ・ロケのまち」信州上田（長野県上田市）

80年余の歴史を持つ"ロケのまち"で 今、繰り広げられる「地域の宝」発掘の取り組み

財団法人中部産業・地域活性化センター

客員研究員 坂口香代子

長野県東部に位置し、観光地としては「信州上田」と呼ばれ親しまれる長野県上田市。実はこの地は、映像関係者や映画ファンの間では、国内でも屈指のロケ地として知られる場所。1923年（大正12年）に初めて映画のロケ地としての歴史を刻んで以来、確認されている劇場公開映画だけでもこれまで100本余りもの実績を数えている。2001年（平成13年）に信州上田フィルムコミッションが設立されると、より活発な誘致活動が始まり、「屋根のないスタジオ・ロケのまち信州上田」として、現在では年間50本近くの撮影が行われている。そんな上田市で、近年新たに始まったのが、物語の舞台となったことを活かした地域の宝の発掘・情報発信である。今回は、「屋根のないスタジオ・ロケのまち」としての歴史を積み上げてきた要因とともに、その新たな取り組みを紹介したい。



『榎山節考』（1983年）や『怪物くんSP』（2011年・TV）などの「鴻之巣」（写真左）。『ゼロの焦点』（2009年）や現在放映中の『南極大陸』（2011年・TV）などの「浦里小学校」（写真右）。上田市民にとっては見慣れた景色が、数多くの映画やテレビドラマに登場している。

（上田市提供）

1. ロケのまち・信州上田

始まりは無声映画の時代

上田市観光課などの調査によると、現在確認できている上田ロケ映画の最古作品は、1923年（大正12年）に公開された『乃木大将幼年時代』（松竹蒲田、島津保次郎監督）だという。まだ無声映画しかなかった時代である。

続いて、『乃木大将伝』（1925年、牛原虚彦監督）、そして『孤児』（1926年、野村芳亭監督）と立て続けに映画のロケ地として使われ、五所平之助監督・田中絹代主演の『絹代物語』（1930年）や小津安二郎監督のトーキー第一作『一人息子』（1936年）、また黒澤明監督のデビュー作『姿三四郎』（1943年）のロケ地としても上田市はその名を連ねている。

映画人たちとの交流

しかし今でこそ上田市は長野新幹線も通り、約190km離れた東京との間を最短78分で行き来することができるが、当時はまだ蒸気機関車の時代。東京から10時間近くもかかる場所がなぜロケ地として選ばれたのだろうか？

上田市観光課の職員であり、現在、市のロケ誘致の推進団体である「信州上田フィルムコミッション」の事務局を務める内海誠一さんはその理由を、「確かな文書が残っているわけではなく、おそらく」と前置きした上で次のように語ってくれた。

「明治・大正期の上田は、日本有数の蚕種（蚕の卵）の生産地で、その品質もヨーロッパに輸出するほど良いことで知られ、『蚕都上田』として繁栄していたのです。そのような経済的に豊かな中で、当時最先端の娯楽であった映画に関心を寄せる人たちが現れ、映画づくりを手伝おうという動きが始まったようです。」

蚕都として栄えていた上田で富を得た人々が映画人と交友関係を結んだ縁が、ロケ地として使われるようになった始まりというわけだ。以来、五所平之助、小津安二郎、黒澤明、今村昌平、大林

【資料1】

【長野県上田市の概要】



東西約31km、南北約37kmの広がりを持ち（面積552km²）、周囲を2,000m級の山々に囲まれた長野県東部に位置する人口16万人の中核都市。戦国時代に真田氏が築いた上田城の城下町を中心に、市域は上田盆地全体に広がり、それを二分するように千曲川（新潟県からは信濃川）が横断している。

現在の市は、2006年（平成18年）3月6日に上田市、丸子町、真田町、武石村が合併して誕生した。合併したそれぞれの地域は、戦国武将・真田氏ゆかりの地に代表される史跡をはじめ、別所温泉や鹿教湯温泉といった由緒ある温泉地、そして菅平高原や美ヶ原高原といった国指定の公園などを有し、歴史と文化、自然に彩られた個性豊かな観光資源に満ちた地域で、その風土と四季折々の魅力によって年間約400万人の観光客を惹きつけている。

また上田市は、かつて「蚕都（さんど）」として栄えた歴史を持つ土地柄であり、蚕糸業で培われた技術的基盤や進取の精神は、現在、機械金属工業に受け継がれ、県内屈指の工業地域としての顔も持つ。その一方で歴史的な家並みも多く残されており、里山や田園などの豊かな自然環境も相まって、理想の日本の原風景を見ることができる。

（参考：上田市HP）



上田城跡公園（上田市提供）

宣彦、山田洋次、篠田正浩、北野武など、日本映画を代表する監督が次々と上田をロケ地として選び、これまでに劇場公開された映画だけでも100本余が確認されている。

「うえだ城下町映画祭」の開催

「現在、上田市が多くの映像制作関係者に広く名が知られているのは、地域の人々が労を惜みまずロケに協力を続けてきた歴史にあると思います。最初は、民間で映画に関心のある一部の人たちが自主的にロケの支援活動をするというものでした。彼らがその中で、映画関係者たちと積極的に交流を育み、どのような支援をすることがより良い映画づくりにつながるのかを見つけていった結果、『上田のロケは居心地がいい』と評判を呼び、松竹映画のロケ隊支援から始まった取り組みが、日活、大映、東宝の映画ロケ支援へも広がり、上田市に多くの映画ロケ隊が訪れる結果になったのでしょう。」

ロケが増えるに従い、その光景は地域の多くの人々の目に触れることとなる。それは自然と自分たちのまちが映画に登場することへの関心へとつながり、一般の市民の中からも積極的にロケ協力を申し出る人たちが生まれ、エキストラとして参加する人も増えていった。

やがてそれは「ロケを活かしてまちを元気にしよう」というまちの声となり、1997年には行政と民間が協力して「うえだ城下町映画祭」をスター



上田駅前のバスターミナルに大きく掲げられた「うえだ城下町映画祭」タペストリー。第15回目を迎えた2011年は、山田洋次監督などを迎えて開催。

ト。以来毎年、上田にゆかりのある映画監督やスタッフを招いたトークイベントが行われるとともに、上田ロケ映画と日本の名作映画の上映、そして人材発掘を目的とした自主制作映画コンテストが行われている。

国内初のロケ地ガイド『YES UEDA』

さらに、1999年には、うえだ城下町映画祭を訪れた撮影カメラマンのアドバイスから、上田市の撮影に適した風景や建物などをまとめた国内初のロケ地ガイド「YES UEDA」を制作し、映画関係者に配布。観光とは全く別の映画製作の視点から上田市の景色を細かく分類し、写真と地図を掲載したものだ。これが話題となって、映画祭の実行委員と市職員が東京の「フィルムコミッション設立研究会」から誘いを受け、そのメンバーとして参加することになった。

2000年に、大阪や神戸などの各地で日本初の「フィルムコミッション」(※1)が誕生すると、上田市も翌2001年に日本で10番目となる「信州上



日本初のロケ地ガイド「YES UEDA」(上田市提供)

(※1) フィルムコミッション

通称「FC」と略される「フィルムコミッション」は、地域経済や文化の活性化を目的に、映画やテレビドラマなどのロケを無償で支援する組織である。1940年代後半にアメリカで始まり、日本でも現在170を超える地域でFC関連団体が誕生しているが、日本で初のFCが生まれたのは2000年と歴史はまだ浅い。約150の組織・団体が全国組織の「ジャパン・フィルムコミッション」に所属しており、信州上田フィルムコミッションもその1つ。

田フィルムコミッション（以下、信州上田FC）」を設立し、ロケ地の紹介からエキストラの手配、スタッフの宿泊や食事など、撮影を円滑に進めるさまざまなサポートを行っている。

この信州上田FCの設立以降、上田市ではさらに活発なロケ誘致活動が始まり、「屋根のないスタジオ・ロケのまち信州上田」として、現在では年間50本近くの映像作品の撮影が行われているのである。

地方市町村では他に例がないほど多くのロケが行われている理由

しかし、一地方都市が、なぜこれほどまでロケ地として重宝されているのか。年間50本近いロケというのは、正直驚く数字である。そこにはいくつかの要因がある。

まず、この地域は国内でもまれな少雨地帯であること。屋外ロケの場合、スムーズな撮影スケジュールの一番の妨げになるのは、当然のことながら天候である。晴天率の高さはロケ隊にとって最も求めたい条件の1つ。そして、交通網が発達したことにより東京の近郊と呼べる地の利を得たうえに、四季の情感豊かな日本の原風景と歴史的な街並みや建物が比較的多く残っていたことである。歴史ものに欠かせない城跡、大正ロマン漂う建物があるかと思うと、昭和レトロな街角も残る。昔ながらの日本の温泉地の趣を残す温泉街もある。これらが、地方市町村では他に例がないほど多くのロ



上田市役所商工観光部観光課
観光振興担当 主査 内海誠一さん

【資料2】

【「屋根のないスタジオ・ロケのまち上田」推進組織】

上田観光コンベンション協会

観光協会としての役割を果たす組織として1997年に設立。市内の土産物屋をはじめとする企業や市の主要団体が加入。現在のところ法人化はされておらず、再来年にする予定。事務局は上田市役所商工観光部観光課。

信州上田フィルムコミッション（信州上田FC）

2001年設立。上田観光コンベンション協会の1事業として活動を行っている。

上田市役所 商工観光部 観光課

上田観光コンベンション協会及び信州上田FCの事務局。

ケが上田市で行われてきた主な要因だ。

しかし、それだけではない。まれな少雨地帯であるという気象条件は特別だが、他の地方都市にも、映像制作側が魅力を感じる豊かな自然環境と歴史的建造物が残るところは、数多くある。何より上田を「屋根のないスタジオ・ロケのまち」として決定づけているのは、ロケ地として積み上げられてきた歴史と、その上に成り立つ上田市民の誇りであると言っても過言ではない。それを象徴する光景に、ロケに同行する信州上田FCのスタッフや内海さんたちはたびたび出会う。

年月をかけて定着した

「ロケ協力は当たり前」という市民感覚

「例えば、これは信州上田FCのスタッフに聞いた話ですが、田畑に囲まれた場所で撮影準備をしていると、すぐ近くで、野良着を着た近所のおじいさんが草刈りを始めたというのです。これはまいったなと思い、やめてもらうために『おじいさん』と声をかけると、次の言葉を言う前に『今日は映画かい？ドラマかい？』という返事が返ってきた。そして作業をやめてたばこを1本だけ吸い、そろそろ撮影開始となったころ、まるでそれを見計らったかのようにゆうゆうと引き揚げて行ったということです。そのスタッフは、上田市が古くから映画に関わってきた歴史の中で『ロケ協力は

もはや当たり前』という市民感覚が根付いていることを強く感じたと言っていました。」

上田市では、有名な俳優やタレントが来ても、野次馬が集まってくることは少なく、拍子抜けするほど騒ぎにならない。それもまた「歴史が育てた上田市の日常」に他ならないからだ。

「建物での撮影なども、市で許可をすれば済む公共のものだけでなく、一般のご家庭や企業の持ち物、あるいは神社仏閣なども、問題なく撮影許可をいただけることが多いのです。ですから、実際のロケ期間だけでなく、その前の準備期間の短縮も図れて、制作サイドから『上田でのロケは予想以上に早く進む』と喜んでいただけるわけです。」

まさに「ローマは一日にしてならず」ということだろう。現在の年間50本近くの撮影実績は、「騒がず、そして嫌がらず」という撮影を受け入れる気質が長い年月をかけて市民に定着し、その下地のもと、FC設立によってより活発なロケ誘致を行えるようになった結果と言えるのではないだろうか。

そんな中、上田市がロケ地の1つとしてではなく、物語の舞台として大きな話題を集めたのが、2009年8月に劇場公開されたアニメ映画『サマーウォーズ』である。ここから上田市はまた新たな展開へのスタートを切る。それを次に紹介しよう。

【代表的な上田ロケーション作品】 作品名（公開年）／監督

■映画

『乃木大将幼年時代』（1923）：島津保次郎
 『絹代物語』（1930）：五所平之助
 『恋の花咲く 伊豆の踊子』（1933）：五所平之助
 『一人息子』（1936）：小津安二郎
 『姿三四郎』（1943）：黒澤 明
 『けんかえれじい』（1966）：鈴木清順
 『犬神家の一族』（1976）：市川 崑
 『男はつらいよ寅次郎純情詩集』（1976）：山田洋次
 『野生の証明』（1978）：佐藤純彌
 『檀山節考』（1983）：今村昌平
 『ひめゆりの塔』（1995）：神山征二郎
 『卓球温泉』（1998）：山川 元
 『学校の怪談4』（1999）：平山秀幸
 『リングO～バースディ～』（2000）：鶴田法男
 『淀川長治物語 神戸篇サイナラ』（2000）：大林宣彦
 『LOVE SONG』（2001）：佐藤信介
 『告別』（2001）：大林宣彦
 『およう』（2002）：関本郁夫
 『たそがれ清兵衛』（2002）：山田洋次
 『ROUND1』（2003）：山田大樹
 『スパイ・ゾルゲ』（2003）：篠田正浩
 『さよなら、クロ』（2003）：松岡錠司
 『君のままで』（2003）：鈴木浩介
 『零 ゼロ』（2004）：井出良英
 『血と骨』（2004）：崔 洋一
 『理由』（2004）：大林宣彦
 『なま夏』（2005）：吉田恵輔
 『青燕』（2005）：ユン・ジョンチャン
 『博士の愛した数式』（2006）：小泉堯史
 『嫌われ松子の一生』（2006）：中島哲也

『恋する日曜日』（2006）：廣木隆一
 『7月24日通りのクリスマス』（2006）：村上正典
 『犬神家の一族』（2006）：市川 崑
 『監督・ばんざい!』（2007）北野 武
 『たとえ世界が終わっても』（2007）：野口照夫
 『隠し砦の三悪人』（2008）：樋口真嗣
 『ラストゲーム-最後の早慶戦-』（2008）：神山征二郎
 『私は貝になりたい』（2008）：福澤克雄
 『サマーウォーズ』（2009）：細田 守
 『ヴィヨンの妻』（2009）：根岸吉太郎
 『さまよう刃』（2009）：益子昌一
 『ゼロの焦点』（2009）：犬童一心
 『マリア様がみてる』（2010）：寺内康太郎

■TVドラマ

『フジ子・ヘミングの軌跡』（2003）：若松節朗
 『TRICK トリック(3) episode1、2』（2003）：堤 幸彦ほか
 『あいくるしい 第2話』（2005）：吉田健
 『広島・昭和20年8月6日』（2005）：福澤克雄
 『時代屋の女房』（2006）：雨宮 望
 『ギャルサー』（2006）：岩本仁志ほか
 『僕たちの戦争』（2006）：金子文紀
 『鉄板少女アカネ!! 第6話』（2006）：竹村謙太郎
 『裸の大将(1)』（2007）：松本 明
 『姿三四郎』（2007）：木下高男
 『鉄道むすめ 第11・12話』（2008）：東條政利
 『白洲次郎 第1回』（2009）：大友啓史
 『坂の上の雲 第1部』（2009）：柴田岳志
 『それでも、生きてゆく』（2011）：永山耕三
 『怪物くんSP』（2011）：石尾 純
 『南極大陸』（2011）：福澤克雄

2. 映画『サマーウォーズ』の里としての信州上田

風景の良さだけではない
「その場所の力」が感じられる場所として、
物語の舞台になった信州上田

青春映画の傑作として国内外から高い評価を受けたアニメ映画『時をかける少女』を手がけた細田守監督が、そのスタッフを再結集して制作したアニメ映画『サマーウォーズ』（2009年8月劇場公開）。その物語の舞台となったのが上田市である。映画公開から現在まで、物語の舞台を一目見ようと全国各地から多くのファンが訪れている。

映画の内容を一言でいうと、インターネット上の仮想空間で、現実世界をも乗っ取り暴走する人工知能と戦う戦国武将の末裔である大家族の物語である。「どんなハイテクなネットワークよりも、家族という絆は、何よりも強力なネットワークである」ことをテーマにつくられたこの物語に登場するのは「上田市の陣内家^{じんのうち}」。この旧家の先祖のモデルとなっているのが戦国時代に名を馳せた真田一族である。

JR上田駅、丸窓が特徴の上田電鉄別所線、上田城の櫓門そっくりの陣内家のお屋敷の門、上田高校、地域の夏祭りとして愛される上田わっしょい、そして、真田一族の歴史や美しい田園風景など、映画には上田市の魅力が随所に登場するが、なぜ細田監督は、上田市を舞台とする映画を着想したのか。

「率直に言ってしまうと、そもそものきっかけは細田監督の奥様が上田市の出身だったということです。『時をかける少女』をつくり終えられたところにプロポーズされ、2006年の夏にお二人で奥様の実家にご挨拶に行かれたのが、上田市に来られた最初。雲の形や空の高さと青さ、そして山がとても近く、稜線のある風景の心地よさが監督の心に強く残ったそうです。それが作品に反映されたわけですが、監督はそういった風景とともに、奥様や奥様のご家族から日常の会話の端々に次々と出てくる真田一族ゆかりの話など、地域の人

【資料3】

【アニメ映画『サマーウォーズ』とは】

舞台はインターネット上の仮想空間「OZ（オズ）」と現実がリンクしながら存在している「現代」。天才的な数学力を持ちながらも内気な性格の小磯健二は、高2の夏休みに憧れの先輩、夏希にアルバイトを頼まれる。夏希に連れられて行った場所は長野県上田市にある彼女の田舎だった。そこには室町時代から続く戦国一家・陣内家の16代当主であり、一族を束ねる大黒柱、夏希の曾祖母・栄をはじめ、総勢27人の大家族が待っていた。

個性の強い陣内家の人々を前に、たじろぎながらも大勢で食卓を囲むことの喜びを知る健二。しかし、その夜、健二の携帯に謎の暗号が届き、解読に挑んだ健二は翌朝、「OZ」荒らしの犯人に仕立て上げられてしまう。やがて仮想の出来事が現実世界をも巻き込み、世界を危機に陥れようとしていく。世界を救うべく、健二と共に陣内一家も立ち上がる！

現実世界のモデルとなっているのは、長野県上田市。アニメーションで描かれた実際の建物や電車、美しい風景をバックに、仮想とも現実ともつかない世界の危機に対して立ち向かう少年の成長と、スーパーおばあちゃんによって守られている家族の絆、人間関係のつながりを描いた物語。

公開：2009年8月

キャスト(声の出演)：小磯健二…神木隆之介、篠原夏希…
桜庭ななみ、陣内栄…富司純子、池沢佳主馬…谷村美月、陣内侘助…斎藤歩、陣内由美…仲里依紗

監督：細田守

脚本：奥寺佐渡子

主題歌：山下達郎「僕らの夏の夢」

キャラクターデザイン：貞本義行

アニメーション制作：マッドハウス



©2009 SUMMERWARS FILM PARTNERS

(参考：サマーウォーズ公式HP、写真提供：上田市)

これほど誇りに思うものがある信州上田という場所に興味を惹かれたようです。」

ただ、「監督の妻の出身地であったこと」はきっかけに過ぎず、上田市が選ばれたのにはもう一つ大きな要因があった。

実は『サマーウォーズ』は、アニメ映画としてはあまり例のない、詳細なロケハンが実施された作品である。細田監督は、2009年10月に開催された東京国際映画祭の関連イベントのシンポジウムで、アニメ制作においてロケハンをする意味を次のように語っている。「アニメというのは雰囲気を描いてしまうと絵空事になってしまうような危うい世界。そのためリアリティが必要になるが、ビジュアルのリアリティだけではなく、歴史も含めたトータルな“その場所の力”みたいなものが必要な時があるのではないか。特にそこに住んでいる人の気持ちが作品内容とシンクロすると、土地の説得力が映画に説得力を与えてくれる。その点でロケハンはとても重要だと思う」と。(上田市提供の資料より)

細田監督が『サマーウォーズ』の脚本づくりに入った時点では、逆に家族の実家がある場所ゆえの恥ずかしさがあり、上田市からは自分の体験だけをもらい、映画の舞台は別のところにしようと考えていた。しかし、上田市に限らず、ほかの候補地もいろいろ見て回った結果、やはり上田市がこの映画の内容に一番ふさわしい舞台だと思ったのだという。

決め手となったのは「地域に根付く誇りと心意気」だった。

上田市でのロケハンには信州上田FCの案内のもと2回にわたって行われたが、義父母に聞くのと同じように真田一族を誇りに思う市民の熱い思いに細田監督はたびたび触れたのである。真田一族というと、全国的には三代目の真田幸村がよく知られ、英雄視されているが、地元上田市では、2度にわたり徳川軍を打ち破った幸村の父である昌幸が圧倒的な人気を誇る。もともとは武田信玄に側近として仕えていたが、兄たちが長篠の合戦で戦死したため真田家を継ぎ、武田家の滅亡後は、織田、上杉、北条、徳川ら大勢力が群雄割拠する中を生き抜き、1583年に上田城を築城。その2年後、徳川家康が昌幸を討伐するため大軍を差し向けた上田合戦において、徳川軍7,000人に対しわずか2,000人の兵力で守り切り、真田の名を天下

に響かせた人物である。さらに1600年の関ヶ原の戦いでは、西軍に味方して再び上田城で徳川軍と交戦し、これまた撃破。軍事力の差で圧倒的に不利であったにも関わらず、2度にわたり徳川軍を打ち負かしたことに、市民はおおいに痛快さを感じるのだ。

つまり、自分たちのまちの戦国歴史ロマンを今も誇りにする上田市民の心意気がサマーウォーズの世界にぴったりだとして、上田市が舞台に選ばれたのである。

こうして誕生した『サマーウォーズ』は、上田市を舞台に、誰もがふと懐かしさと憧れを感じる日本の原風景と世代を問わないテーマ性が話題を呼び、オリジナルアニメ映画としては異例の長期興行となり、観客動員数が123万人を超えるヒット映画となったのである。

市民のアプローチで始まった 信州上田ブランド力アップへの取り組み

『サマーウォーズ』は、上田市にとってはある意味、市のプロモーション映画とも言えるものだ。当然、映画公開前から、『サマーウォーズ』による信州上田のブランド力アップへの取り組みはスタートした。

しかし、内海さんによると「当初、その動きはやや鈍かった」という。2009年の年明け早々に製作発表が行われ、上田市が舞台となるアニメ映画が公開されることがはっきりとわかったものの、その時点では行政として具体的な動きへ踏み出せないでいた。その理由は、『サマーウォーズ』がアニメ映画だったことにある。今や、「アニメ聖地巡礼」は観光振興の一つのカテゴリーとして注目され始めているが、当時はまだアニメを活用して上田市をどうPRしていくのかが見えず、上層部の理解が得られなかったのだ。

「そんな中、市民の方からの問い合わせがあったのです。正確に言うと、『うえだNavi』というフリーペーパーの編集長からです。『サマーウォーズ』のキャラクターデザインを担当しているのは、

アニメ界では知らない人はいない有名なアニメーターであり漫画家の貞本義行さんだと。代表作には『新世紀エヴァンゲリオン』もある。当然、市として何かやるんでしょう？とね。」

この市民からのアプローチをきっかけとして市の上層部でも関心が生まれ、まずどのようなアニメ映画であるのかを知るために、5月にサマーウォーズ制作委員会との打ち合わせを兼ねた『サマーウォーズ』の特別試写会（未完成試写鑑賞）を上田市で開催。6月には、上田市長が同じく未完成試写を鑑賞するとともに細田監督との対談を実施。これで一気に動きが加速し、上田観光コンベンション協会が主体となった具体的な動きがスタートした。（付録：【信州上田で展開されている映像コンテンツを生かした主な取り組み】参照）

「感動☆プロジェクト」による ロケ地マップの制作と配布

特筆すべきは、行政の当初の反応はやや鈍かったものの、やはりここは『屋根のないスタジオ・ロケのまち信州上田』なのだと感じる動きが、非常に早い段階からあちらこちらで起こっていたことだ。

丸子地域（旧丸子町）の成人式で実行委員を務めた若者が中心になってできた「感動☆プロジェクト」という団体の動きもその一つ。彼らは4月28日の『サマーウォーズ』について書かれた新聞記事を目にし、観光課へ飛び込んで行ったのだ。現在、20代の16人のメンバーで活動する「感動☆プロジェクト」は、7年前に旧丸子町社会教育課からの映画上映会開催の声掛けを受けて集まり、ドキュメンタリー映画の上映会を成功させたのが結成のきっかけである。2009年のその頃は、リバーサイドシアターを開こうと考え、映画を探していた時だった。

結果的には『サマーウォーズ』に関しては「感動☆プロジェクト」が上映できるような規模の映画ではなかったため断念したが、彼らはそこで終わりにしなかった。自分たちでできることは何か



サマーウォーズのロケ地マップの構想を練る感動☆プロジェクトのメンバー。2009年当時。（上田市提供）

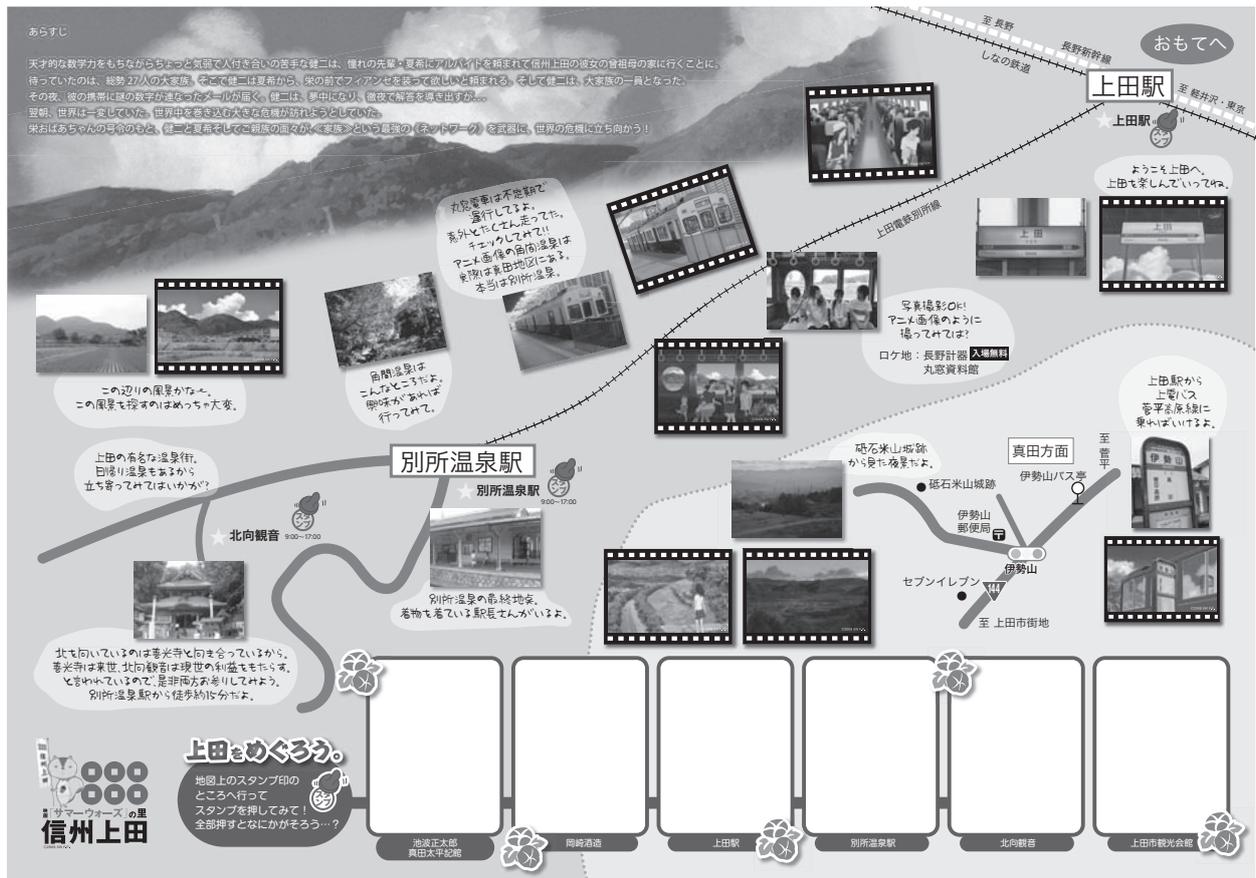
を考え、サマーウォーズロケ地マップを自ら製作。それが現在、上田観光コンベンション協会も製作費援助などで関わり、上田市の観光拠点である上田市観光会館などに置かれ、サマーウォーズファンや観光客にとって非常に価値あるツールとして活用されている「信州上田こいこいマップ」である。

実はこのマップには、サマーウォーズファンにはたまらない洒落た仕掛けが施してある。簡単に



©2009 SUMMERWARS FILM PARTNERS

感動☆プロジェクト製作による「こいこいマップ」の表紙。開くとA3サイズになり、表面は市街地、裏面は市街地以外のロケ地マップとなっている。裏表紙に書かれた感動☆プロジェクトの説明には「上田市をこよなく愛するあまり、どうにか町を盛り上げようと、アツい想いをふくらませている集団」と記されている。（上田市提供）



©2009 SUMMERWARS FILM PARTNERS

「こいこいマップ」の裏面。上田電鉄別所線沿線や真田地区など市街地以外のロケ地が掲載されている。また、6つのスタンプを押す枠が設けられており、5つは映画の中で世界を救うアイテムたちで、1つは感動☆プロジェクトスタンプ。（上田市提供）

言う、各地を巡ってスタンプを集めるスタンプラリー形式になっているのだが、そのスタンプが映画の中で重要なカギを握る「5つの花札」なのだ。現在のところは全てのスタンプを集めても特典はない。しかし、実際に全てを集めて実感したのが、熱烈なサマーウォーズファンならずとも映画を見た人にとっては、これらの花札スタンプを集めることで物語中の敵に勝ち、映画に参加したような気分になれることだ。内海さんによると同じような感想を上田市観光会館に置かれた記帳用ノート（通称「聖地巡礼ノート」）に書き残す人は多いという。

BD&DVD購入特典に成長した「こいこいマップ」

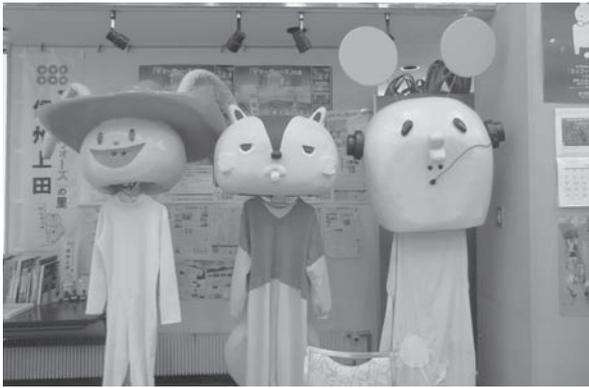
さらに、この「こいこいマップ」には別バージョンがある。BD&DVD発売時に特典として数量限

定で封入された「スーパーこいこいマップ」だ。『サマーウォーズ』の舞台『信州上田』へ行こう」をキャッチフレーズに、ロケ地マップだけでなく上田市の四季それぞれの魅力が紹介されている。

「上田市側から働きかけたものです。非常に珍しいと思います。通常、映画のDVDにこういった一地方の観光PRリーフレットともいえるものが入れられることはありませんから。これは、ロケハンの時から、サマーウォーズ制作サイドとの間で非常に良好な関係を築いてきたからだだと思います。」

「上田わっしょい」との連携

上田青年会議所の動きも、サマーウォーズ公開前に始まっていた。青年会議所が着目したのが、映画にも登場する上田市の夏の風物詩「上田わっしょい」との連携である。「上田わっしょい」は、



サマーウォーズ連が上田わっしょいで着るアバターの一部。当初7体だったが、現在15体がつくられており、その一部が上田市観光会館で展示されている。

(※2) アバター

インターネット上で用いられる自分の分身となるキャラクターのこと。『サマーウォーズ』の中では仮想空間「OZ」で主人公たちの分身として活躍する。

例年7月の最終土曜日に上田市の中心市街地で開催される市民祭りで、そのメインは上田わっしょいの曲に合わせて、自治会や学校、企業、また各種グループが「連」と呼ばれる一団をつくり、踊りを披露するというもの。これにサマーウォーズのアバター(※2)の着ぐるみをつくり、上田わっしょいの盛り上がりと映画のPRを兼ねて「サマーウォーズ連」として参加しようと考えたのだ。着ぐるみづくりは公募で上田市内の2つの高校の美術部と専門学校の3校に依頼。2009年8月1日の公開直前の上田わっしょいに登場したサマーウォーズ連は、注目を一気に集め、祭りを大いに盛り上げた。

細田監督直筆の表紙デザインが施されたサマーウォーズノート

また、上田市観光会館には、上田を訪れたサマーウォーズファンや観光客たちが自由に閲覧・書き込みをできる「サマーウォーズノート」、いわゆる聖地巡礼ノートが置かれているが、この表紙絵は細田監督直筆のもの。公開前に上田市民約1,200人を集めて開催された特別試写会で来訪した細田監督に依頼し、描いてもらったのだ。内海さんの話を聞き興味を惹かれたのが、現在7冊目まであ



表紙に細田監督直筆のイラストが施されたサマーウォーズノート(通称 聖地巡礼ノート)

るノートの表紙絵はすべて最初に描いてもらったものではないこと。次のノートが必要になる度に監督に依頼し、その都度、描いてもらっているという。ここにも一種の仕掛けがあって面白い。上田市と監督、そしてファンたちとの交流が、このノートを通じて続いている。

『サマーウォーズ』による 上田ファンづくりは次の段階へ

これら、『サマーウォーズ』をきっかけに上田市を訪れた観光客の期待に応える仕掛けづくりは、先の『うえだNavi』の編集長たち市民有志を中心にその後つくられた「信州上田サマーウォーズ実行委員会」とともに、上田観光コンベンション協会や行政も加わり、関連イベントの開催や上田市限定サマーウォーズオリジナルグッズの製作・販売などへと展開されていった。

「サマーウォーズ連」も、引き続き上田わっしょいを盛り上げており、映画公開1年後の2010年の参加時には、ホームページやツイッターでの情報

公開の効果もあり、一つの連としては異例の500人、公開後1年を過ぎた2011年も250人もの参加者を数えた。

また、BD&DVD購入特典にまで発展した「こいこいマップ」は、ロケハンにより上田市の風景が精緻に描かれており、観光客に地域の見どころを伝えるだけでなく、上田市民にもしっかりとアプローチしている。あまりに身近過ぎて気づかなかったものが、実は全国的には珍しい風景であったりし、それらが観光資源になることを認識させたのだ。例えば、映画で主人公の健二と夏希が乗った上田電鉄の1つの丸窓と2つの四角窓がある車両。丸窓の珍しさとともに、車窓から見える何気ない田園風景すら、他地域から来た人にとっては魅力的に感じるものだと知ったのである。

内海さんによると、現在、『サマーウォーズ』による信州上田のブランド力アップへの取り組みは、映画公開後一定期間を経過し、第3段階に入っているという。もともと真田三代の地として観光客を呼び込んでいた上田市だが、『サマーウォーズ』公開後は、新たな観光客層が加わり、彼らを取りこぼさないため、さまざまな進化の仕組みを構築中だ。そのポイントとなるのが、著作権や肖像権の問題である。

「これは『サマーウォーズ』に限っての取り組みではなく、ロケのまち上田としてもぜひ進めたいことなのですが、映画公開前や公開中に関しては、製作者側もPRがしたいわけですから、いろいろな素材提供をしていただき、その中で一緒にPRができます。しかし、終わってしまったとたんに使えなくなる。著作権や肖像権の問題もあり、製作者側としても難しいとは思いますが、素材が使えないということでは映像コンテンツを生かした観光PR、地域振興になかなか結び付いていない。どこのフィルムコミッションも、そこに頭を悩ませています。そこで現在、ジャパン・フィルムコミッションとして国に働きかけをしているところです。」

3. アニメ『戦国BASARA』との タイアップ

アニメ『戦国BASARA』と 上田市の魅力とのコラボレーション

実は上田市はもう一つ、別の映像コンテンツを生かした面白い取り組みも始めている。

昨今の戦国ブームの火つけ役として知られるカプコンの人気アクションゲーム『戦国BASARA』。同ゲームをアニメ化した、アニメ『戦国BASARA』を活用したタイアップである。

この取り組みの推進団体は、上田商工会議所と上田観光コンベンション協会。

きっかけは、アニメ『戦国BASARA』の制作会社「プロダクションI.G（以下、I.G）」が、2009年にアニメの主人公の一人である伊達政宗や片倉小十郎のゆかりの地・宮城県とタイアップを実施し、「ずんだ餅」や「日本酒」など地域の特産品とアニメキャラとのコラボレーションによる商品開発を地元企業とともに成功させていたことを上田商工会議所が知ったことである。この時は、ア

【資料4】

【『戦国BASARA』とは】

ゲーム会社カプコンのヒットアクションゲーム。2005年に第1作となる『戦国BASARA』がPS2ソフトとして登場。日本の戦国時代を舞台に、戦国武将たちのスタイリッシュなアクションと爽快感あふれるバトルシステムで人気を得る。本作のヒットにより、主人公に設定された伊達政宗や真田幸村、他にも長曾我部元親や毛利元就といった戦国武将が10代～30代の若者の間で人気に火がつき、グッズを購入したり、ゆかりの地を訪れたりなど、昨今の「戦国武将ブーム」を生むきっかけになったといわれている。現在、ゲームとしては2011年11月までに8作品が展開され、人気シリーズとなっている。

その人気はゲームファンだけに留まらず、2009年4月には、TVアニメ化。続く2010年7月には続編『戦国BASARA 弐』が放映され、2011年には映画化もされている。その他コミック化や舞台化もされ、多くのファン層を獲得するに至っている。

- ゲーム『戦国BASARA』シリーズ
- 発売元：株式会社カプコン
- シリーズ総販売数量：280万本

アニメとのタイアップに、上田市側の反応も早かった。『サマーウォーズ』による成功事例を持っていたことが大きかった」(内海さん) からで、2009年11月には上田商工会議所と上田市からI.Gにアプローチをし、2010年3月に同じくアニメ『戦国BASARA』に登場する上田市ゆかりの戦国武将・真田幸村のキャラクターを用いた商品開発の説明会を地元で開催したのである。

上田商工会議所は、2010年度の「地域資源の全国展開プロジェクト」(中小企業庁補助事業)の採択も受け、アニメ『戦国BASARA』とのタイアップによる真田幸村をメインキャラクターとして活用した「戦国武将『真田幸村』活用による観光振興事業」に着手。歴史を軸に上田市らしさを演出した新たな観光ルートと新たな土産品を開発し、積極的なPRを展開している。

『戦国BASARA』×上田市による 宝探しイベント

この取り組みの特徴は、単に自治体が映像コンテンツを生かして事業を起こすというのではなく、コンテンツの制作側との双方向タイアップによる取り組みである点。2010年6月に東京国際フォーラムでTVアニメ『戦国BASARA 弐』のPRイベントが「出陣式」と銘打たれ開催された。このイベントで、TVアニメ『戦国BASARA 弐』と上田市とが強力タイアップを組むことを大々的に表明。「真田一族の郷“信州上田”」とアニメ『戦国BASARA』とのコラボホームページを制作し、そのサイトをアニメ『戦国BASARA』公式ホームページや関連自治体の『戦国BASARA』関連ホームページと相互にリンクさせ、『戦国BASARA』のファン層に上田市とのタイアップを訴求。夏にはラッピング電車「戦国BASARA真田幸村号」やラッピングバスを登場させたり、地域の特産品であるりんごジュースや、地ビールのパッケージにアニメ『戦国BASARA』を活用した地元限定商品の開発が行われた。

中でも特に大きな反響を呼んだのが、参加者が

上田市内の各地に設置された「謎」を解きながら「宝箱」を探す宝探しイベントである。観光客や地元の人に市内を回遊してもらいながら地域の魅力を知ってもらい、地域の観光資源を発掘してもらうことを狙いとしたもので、2010年の10月1日～12月12日の2か月半にわたって「謎解き宝探しin上田市 真田幸村の二槍を探せ!」を開催。これが好評であったため、2011年には第2弾として「謎解き宝探しin上田市 真田幸村からの挑戦状～謎の古文書を解読せよ!」がアニメの放送と夏の観光シーズンに合わせて7月1日～9月4日に開催された。

好評の大きな要因は、非常に幅広い層の参加を促せるイベントである点だ。『戦国BASARA』ブームは、これまでの上田市では見られなかった若い観光客を生んでいるが、この宝探しイベントにおいては、「宝探し」をテーマにしたことから、作品ファンの親世代の参加も多数あり、家族連れで楽しむ人たちも多い。

第1弾は市内6カ所のうち3カ所以上を訪れてカードをゲットするというものだったが、第2弾



©2011 CAPCOM/TEAM BASARA

第2弾の上田の宝探しイベント「謎解き宝探しin上田市 真田幸村からの挑戦状～謎の古文書を解読せよ!」のポスター。主催は上田商工会議所。上田市や上田商工会議所などに置かれたチラシを入手すれば誰でも参加できる。

(上田市提供)

では現地を最低3カ所訪れ、宝箱に入っているキーワードを解答用紙に書き込んで上田市観光会館などに届けると、参加賞としてアニメ『戦国BASARA』のオリジナルカードが1枚もらえる。6カ所全てで宝箱を見つけ、各そのキーワードを参考に「最後の謎」を解くと、パーフェクト賞カードがもう1枚もらえるという仕掛けだ。チェックポイントには、別所温泉や鹿教湯温泉もあり、宿泊を視野に入れ、参加者に上田市の幅広い魅力を知ってもらうことも狙っている。また、参加者と地元の人が交流しやすいよう、ヒント提供店として市内約20店舗にヒントパネルが設置された。

「参加者の半分近くは県外からの観光客で、期待通り、観光への集客効果を発揮しています。また、地元の参加者が多かったことも非常に良かった点だと思っています。これは上田市内の小学校すべてに参加用チラシを配布した効果で、地元の人に、自分たちの地域の魅力を再発見してもらえる良い機会にもなっていると思います。」

4. 結びにかえて

地域の誇りと観光振興を結ぶもの

一つの映画やTVドラマによる観光振興には、どうしても賞味期限というものが存在してしまう。継続的なロケ地誘致に取り組んできた上田市は、おそらくそれを十分に承知している。だからこそ、『サマーウォーズ』や『戦国BASARA』の事例には、取り組みの歴史を築き上げていくことの大切さを知っている地域ならではの仕掛けが随所にみられる。宝探しイベントも、その質を高め、成功へと導くために、宝探しイベントのプロ「ラッシュ・ジャパン」(※3)に企画を依頼し実施したものであり、単に映像コンテンツだけに頼った一過性のイベントとは一線を画している。また、「市民が誇りを持って協力する」という、歴史を

積み上げることで生まれる人的資源の有益性についても上田市の事例は教えてくれる。地域の誇りと観光振興は、やはりともに育てていくものなのだと思う。そのためにどう映像コンテンツを生かすかが、コンテンツツーリズム成功の一つの重要な鍵なのではないだろうか。

(※3) ラッシュ・ジャパン

宝探しの企画・監修を行っている宝探しサイト「タカラッシュ！」の運営会社。日本全国の観光地やテーマパーク、商業施設などで宝探しイベントを展開している。

付録：信州上田で展開されている映像コンテンツを生かした主な取り組み

1923年（大正12年）	上田市で初の映画のロケーション撮影が行われる
1997年（平成9年）	上田観光コンベンション協会設立 （事務局：上田市役所商工観光部観光課） 「うえだ城下町映画祭」開催開始⇒毎年開催
2001年（平成13年）6月	信州上田フィルムコミッション（FC）設立
2008年（平成20年）2月18日	アニメ映画『サマーウォーズ』ロケハン（FCが同行）
7月26日	アニメ映画『サマーウォーズ』ロケハン（「上田わっしょい」）（FC同行）
2009年（平成21年）4月	アニメ映画『サマーウォーズ』製作発表
5月	ワーナーブラザーズ映画と打ち合わせ サマーウォーズ製作委員会との打ち合わせ（未完成試写鑑賞）
6月	信州上田サマーウォーズ実行委員会発足
7月11日	上田市関係者用試写会
7月13日	HP「サマーウォーズの里「信州上田」」開設⇒13万件以上のアクセス
7月20日	信州上田サマーウォーズ特別試写会⇒市民約1,200人参加 真田神社で大ヒット祈願
7月下旬	監督自筆による表紙絵の聖地巡礼ノート「サマーウォーズノート」公開 ⇒『サマーウォーズ』効果による観光客の推移をこのノートをもとに統計開始
7月28日	上田わっしょいに、『サマーウォーズ』のアバター連、登場
8月1日	アニメ映画『サマーウォーズ』公開
10月3日	「丸窓まつり」で上田電鉄別所線にサマーウォーズ号登場
2010年（平成22年）3月	『戦国BASARA弐』の説明会開催、関連商品開発始まる
6月26日	東京国際フォーラムで開催された『戦国BASARA弐』出陣式で上田市との タイアップを発表
7月11日	MBS・TBS系列にて、テレビアニメシリーズ『戦国BASARA弐』放映開始
7月30日	「2010サマーウォーズの里「信州上田」～リアルサマーウォーズ・デイズ」開催 ◆観光客やサマーウォーズ・ファンへの歓迎の意を込め、映画に登場する朝顔の 生垣やプランターを、サマーウォーズ2010実行委員会をはじめ、市民有志により、 市内各所へ設置。 ◆上田電鉄別所線「サマーウォーズ号」の運行⇒映画と同様に「角間温泉」行と 表示した特別列車を運行。約100人のアニメファンが集結し、記念撮影などを実施。 運行に合わせ、山下達郎氏による主題歌「僕らの夏の夢」の発着音を上田駅 構内で初披露
7月31日	◆第39回上田わっしょいで「サマーウォーズ連」登場。映画のキャラクターに扮 したアバターや映画にちなんだ服装をした約500人のファンも飛び入り参加。
8月1日	◆上田文化会館にて『サマーウォーズ』の無料上映会&細田守監督トークショー イベントを開催。市内、県内外から約1,300人が参加。
10月～12月	信州DC（デスティネーションキャンペーン）開催 その一環として「戦国BASARA×長野県上田市」イベント、「謎解き宝探しin上 田市 真田幸村の二槍を探せ！」開催
2011年（平成23年）6月	アニメ映画『劇場版 戦国BASARA—The Last Party』公開
7月1日	「戦国BASARA×長野県上田市」イベント、「謎解き宝探しin上田市 真田幸村 からの挑戦状～謎の古文書を解読せよ！」開催（9月4日まで）
9月29・30日	第3回ジャパン・フィルム・コミッション総会を上田市で開催